

第2章

一・二・三・四類感染症及び全数把握対象の五類感染症報告状況

1. 一類感染症

一類感染症の報告はありませんでした。

2. 二類感染症（新型インフルエンザ A/H1N1 は除く）

重症急性呼吸器症候群、急性灰白髄炎、ジフテリア、鳥インフルエンザ(H5N1)

報告はありませんでした。

結核（Tuberculosis）

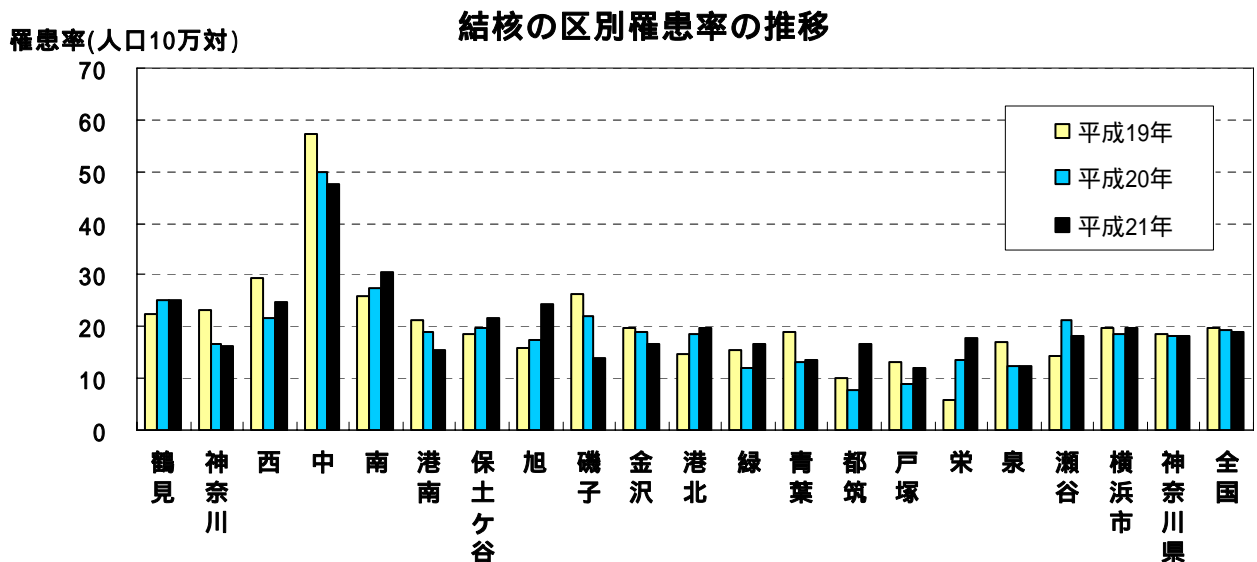
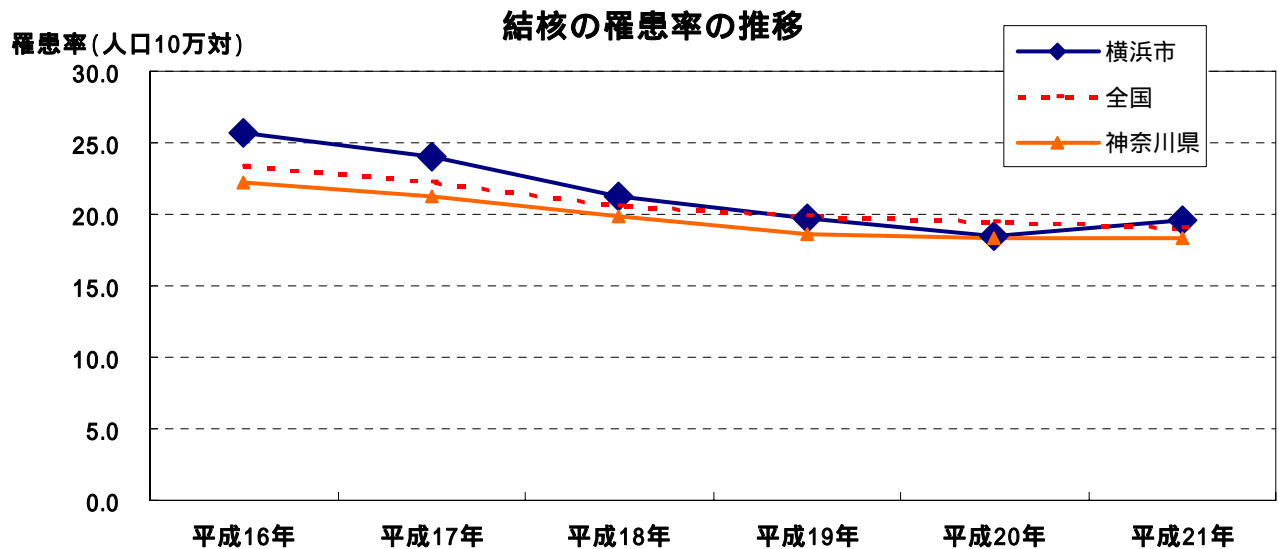
結核は、2007年4月1日から感染症法の二類対象疾患となり、ここでのデータは、横浜市健康福祉局健康安全課で作成した平成21(2009)年結核発生動向調査年報から引用しています。

年間患者報告数は720人で罹患率は19.6(対前年比1.1増)で、昨年より若干増加傾向にあります。全国の罹患率は19.0(対前年比0.4減)でしたので、2009年は、全国を上回りました。

男女別では、男性が476人(66.1%)、女性が244人(33.9%)で、男性の報告が多くみられました。

また、年齢層別では男女とも高齢者の報告が多く、65歳以上が男性では48.7%、女性では44.7%占めていました。行政区別の患者報告数をみると、中区が70人(罹患率47.7)と最も多く、次いで、鶴見区が68人(罹患率25.1)、港北区が64人(罹患率19.7)、旭区が61人(罹患率24.5)、南区が60人(罹患率30.4)の順でした。

人口10万対



3. 三類感染症

コレラ (Cholera)

1 例の報告がありました。

診断日	性別	年齢	菌型	推定感染地域	備考
11/20	男	64	O1エルトル小川型	インド	

細菌性赤痢 (Shigellosis)

11 例の報告がありました。

診断日	性別	年齢	菌型	推定感染地域	備考
1/13	女	34	<i>Shigella sonnei</i>	インドネシア (バリ島)	
3/24	男	33	<i>Shigella sonnei</i>	チリ	
4/10	女	13	<i>Shigella flexneri</i>	日本国内	
4/24	男	20	<i>Shigella sonnei</i>	インド	
4/30	女	46	<i>Shigella sonnei</i>	インド	
5/11	男	26	<i>Shigella sonnei</i>	ベトナム、カンボジア	
6/5	男	26	<i>Shigella sonnei</i>	日本国内	
7/16	男	42	<i>Shigella sonnei</i>	日本国内	
8/20	女	22	<i>Shigella flexneri</i>	インド	
10/1	女	23	<i>Shigella sonnei</i>	チュニジア	
11/14	男	22	<i>Shigella sonnei</i>	インド、ネパール	

パラチフス (Paratyphoid fever)

3 例の報告がありました。

診断日	性別	年齢	菌型	推定感染地域	備考
3/10	男	25	不明	カンボジア	
3/30	女	22	<i>Salmonella paratyphiA</i>	インド	
11/1	男	29	不明	インド	

腸管出血性大腸菌感染症 (Enterohemorrhagic Esherichia coli infection)

87 例の報告があり、うち、患者 (症状あり) が 71 例(81.6%)、無症状病原体保有者が 16 例(18.4%)でした。

菌型は O157 が 71 例と全体の 81.6%を占め、次いで O26 が 6 例 (6.9%)と多く、続いて O121 が 3 例(3.4%)、O111 と O145 が各 2 例(2.3%)、O103、O157 と O165、検出不能が各 1 例 (1.1%)でした。

月別では、6 月が 10 例 (11.5%)、7 月が 31 例(35.6%)、8 月が 13 例(14.9%)、9 月が 6 例(6.9%)で、この 4 ヶ月間で全体の 7 割近くの報告がありました。10 月と 12 月が各 5 例(5.7%)、5 月と 11 月が各 4 例(4.6%)、2 月と 4 月が各 3 例(3.4%)、1 月が 2 例(2.3%)、3 月が 1 例(1.1%)でした。

男女別では、男性が 53 例(60.9%)、女性が 34 例(39.1%)でした。

年齢層別では、10 歳代が 30 例(34.5%)と最も多く、次いで 10 歳未満が 17 例(19.5%)の報告があり、合わせると全体の 54%を占めています。

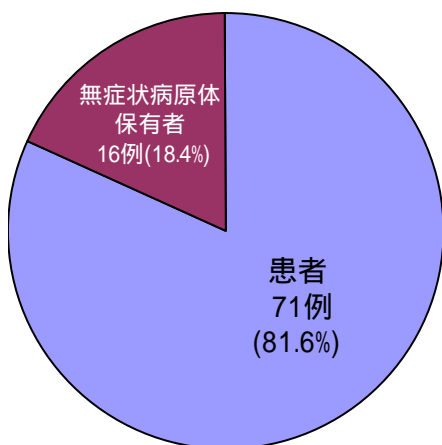
推定感染地域は、日本国内が 76 例(87.4%)、イタリア・フランスが 1 例 (1.1%)、不明が 10 例(11.5%)でした。

また、国内発生 76 例のうち、神奈川県内が 56 例(73.7%)でした。

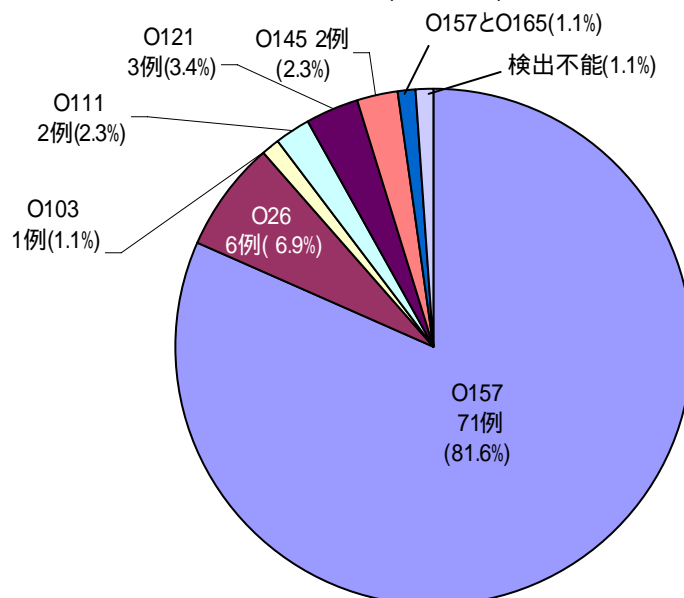
溶血性尿毒症症候群 (HUS) を起こした症例は次の 1 例です。

届出日	発病日	診断日	性別	年齢	菌型	VT	備考
9/18	9/12	9/18	女	2	O157	VT1VT2	

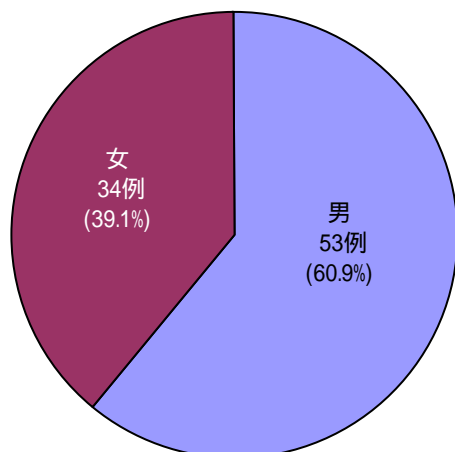
症状別報告割合 (2009年)



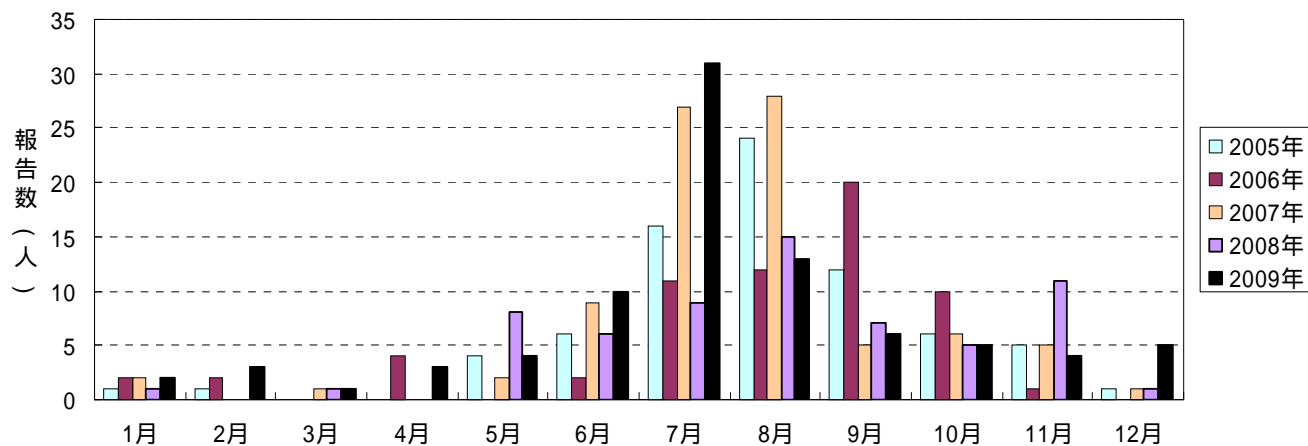
菌型別報告割合 (2009年)



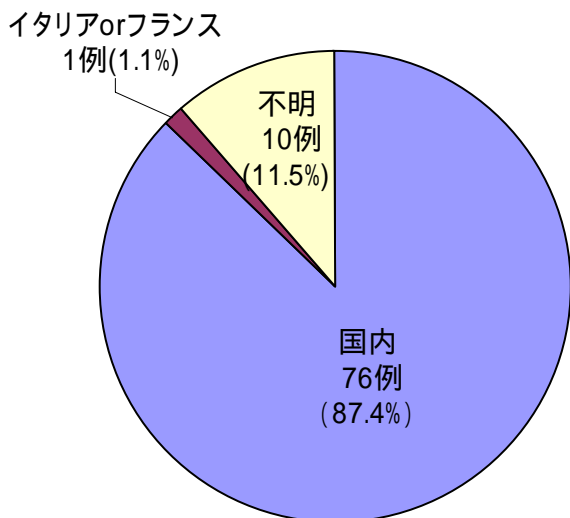
男女別報告割合 (2009年)



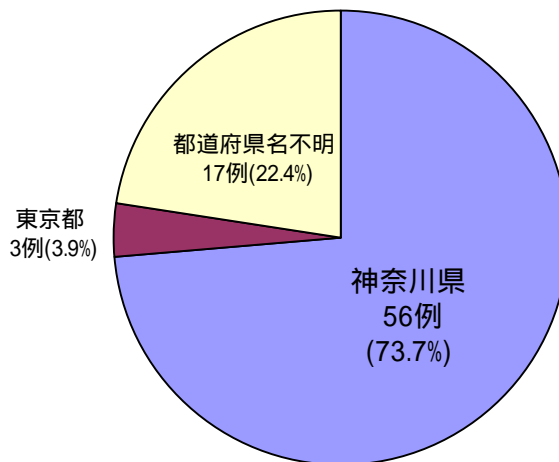
過去5年間の腸管出血性大腸菌感染症月別報告数



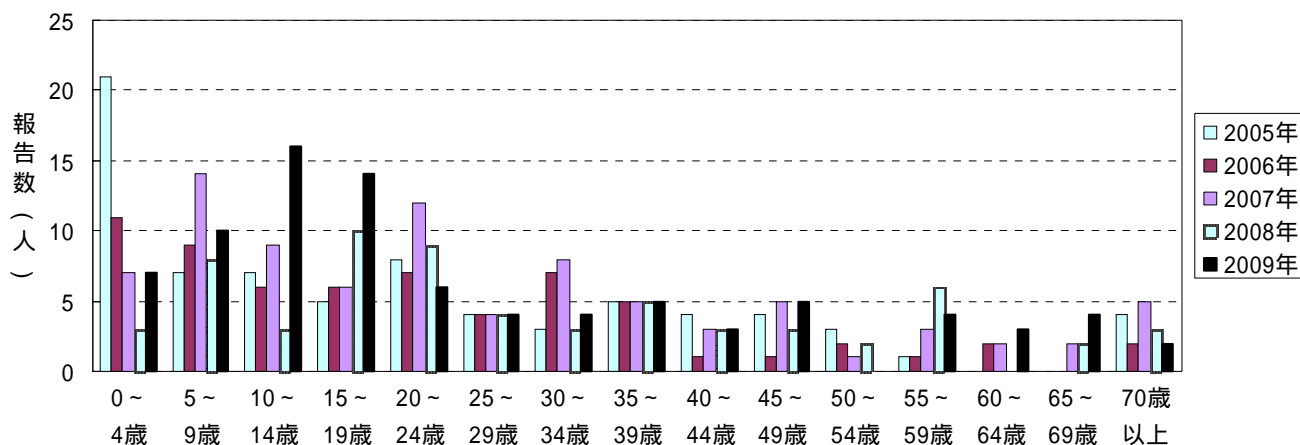
感染地域別報告割合 (2009年)



感染地域別報告割合・国内 (2009年)



過去5年間の腸管出血性大腸菌感染症年齢層別報告数



4. 四類感染症

A型肝炎 (Hepatitis A)

3例の報告がありました。男女別では、男性が1例、女性が2例で、年齢層別では、30歳代、40歳代、50歳代が各1例、推定感染地域は、韓国が2例、ドバイが1例でした。

デング熱 (Dengue fever)

4例の報告がありました。男女別では、男性が3例、女性が1例で、年齢層別では、10歳代、20歳代、30歳代、50歳代で各1例でした。推定感染地域はインドが2例、ポリビア、ラオスが各1例でした。

マラリア (Malaria)

3 例の報告がありました。男女別では、男性が 1 例、女性が 2 例で、年齢層別では、1 歳が 1 例、20 歳代が 2 例でした。推定感染地域は、ギニアが 2 名、タンザニア・ウガンダが 1 例でした。

ライム病 (Lyme disease)

1 例の報告があり、41 歳の男性で、推定感染地域は日本国内でした。

レプトスピラ症 (Leptospirosis)

1 例の報告があり、51 歳の男性で、推定感染地域はフィリピンでした。

つつが虫病 (Tsutsugamushi disease)

1 例の報告があり、71 歳の男性で、推定感染地域は日本国内でした。

レジオネラ症 (Legionellosis)

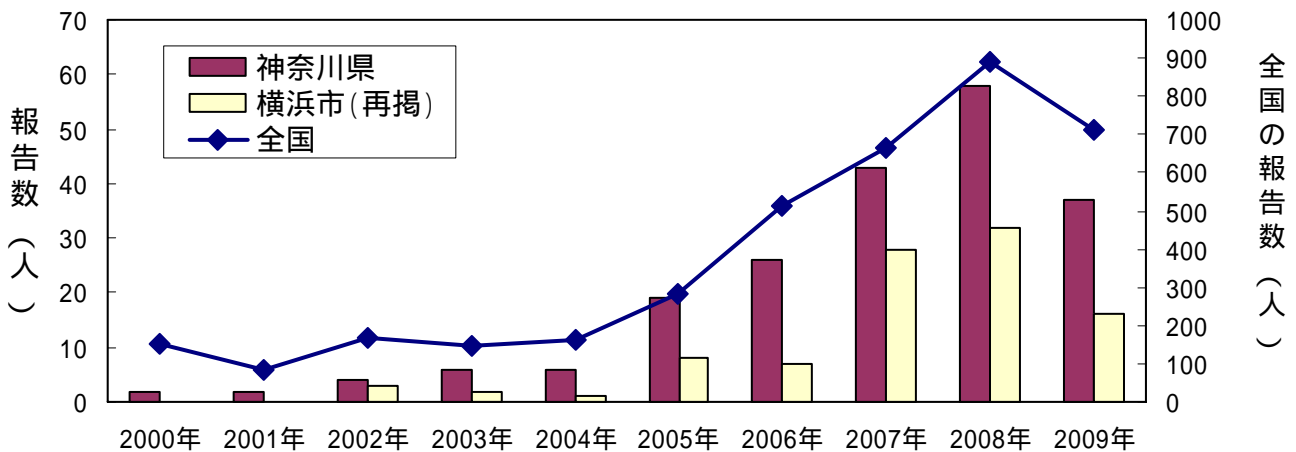
16 例の報告があり、前年の半数の報告数で、病型は 16 例すべてが肺炎型でした。

男女別では、男性が 10 例(62.5%)、女性が 6 例(37.5%)でした。

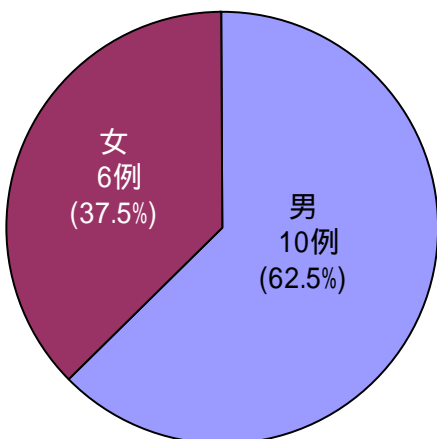
また、年齢層別では、40 歳代、50 歳代が 1 例(6.3%)、60 歳代が 6 例(37.5%)、70 歳代が 4 例(25.0%)、80 歳以上が 4 例(25.0%)でした。

推定感染地域は日本国内が 11 例(68.8%)、海外が 2 例(12.5%)、不明が 3 例(18.8%)でした。感染原因は、水系感染が疑われるものの、患者検体と環境検体の両方からレジオネラ菌属が検出された例が少なく、特定できていない例が多くなっています。

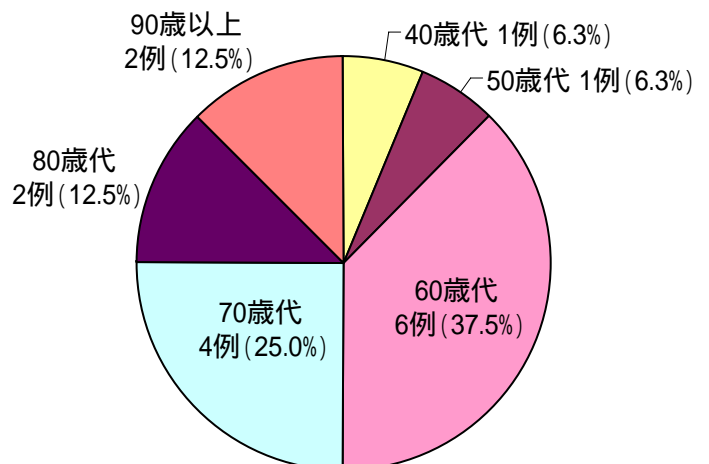
レジオネラ症報告数の年別推移



男女別報告割合 (2009年)



年齢層別報告割合 (2009年)



5. 五類感染症(全数把握対象)

アメーバ赤痢 (Amoebiasis)

35 例の報告があり、区別では、西区が 15 例(42.9%)と最も多く、次いで中区と金沢区が各 3 例(8.6%)となっています。男女別では、男性が 31 例(88.6%)、女性が 4 例(11.4%)、年齢層別では、30 歳代が 6 例(17.1%)、40 歳代が 12 例(34.3%)、50 歳代が 9 例(25.7%)、60 歳以上が 8 例(22.9%)でした。推定感染地域は日本国内 27 例(77.1%)、フィリピン 2 例(5.7%)、韓国 1 例(2.9%)、不明・不詳が 5 例(14.3%)でした。

ウイルス性肝炎 (Viral hepatitis)

5 例の報告があり、B 型 4 例、C 型 1 例でした。男女別では男性が 4 例、女性が 1 例でした。年齢層別では、20 歳代が 2 例の報告があり、1 歳、30 歳代、60 歳代が各 1 例でした。推定感染地域は日本国内が 4 例、不明が 1 例でした。

クロイツフェルトヤコブ病 (Creutzfeldt-Jakob Disease:CJD)

5 例の報告があり、男女別では、男性が 2 例、女性が 3 例で、年齢層別では、5 例とも 70 歳代でした。

急性脳炎 (Acute encephalitis)

16 例の報告があり、男女別では、男性 8 例(50.0%)、女性 8 例(50.0%)でした。年齢層別では、10 歳未満が、9 例(56.3%)、10 歳代が 5 例(31.3%)、60 歳代と 70 歳代が各 1 例(6.3%)でした。病原体は、インフルエンザウイルスが 15 例(93.8%)で、病原体不明が 1 例(6.3%)でした。インフルエンザウイルスによる 15 例のうち 14 例が A 型(93.3%)で、うち 8 例(57.1%)が、新型インフルエンザ(A/H1N1)でした。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (Sever invasive Streptococcal infection)

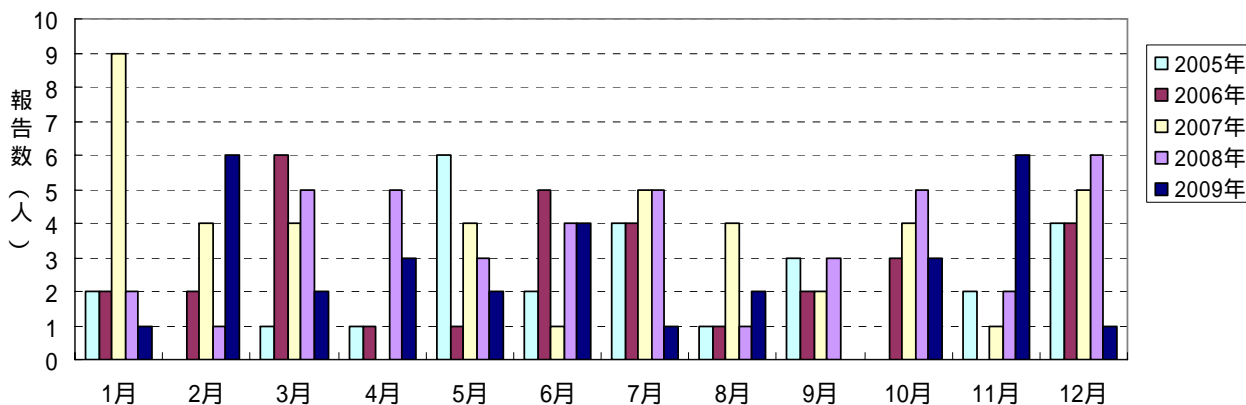
1 例の報告があり、62 歳の男性で、推定感染地域は日本国内でした。

後天性免疫不全症候群 (Acquired Immunodeficiency Syndrome:AIDS)

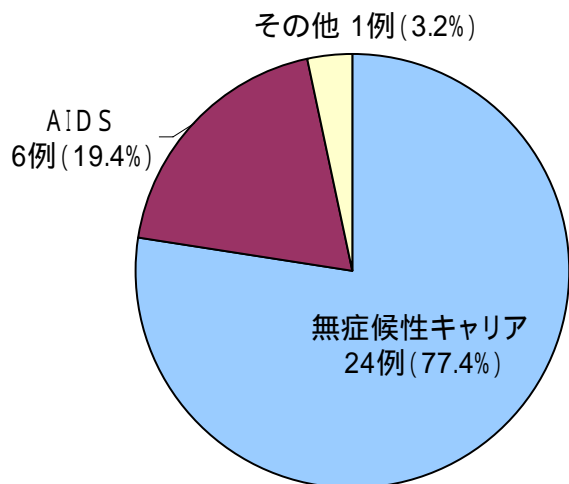
31 例の報告があり、無症候性キャリアが 24 例(77.4%)、AIDS が 6 例(19.4%)、その他が 1 例(3.2%)でした。

31 例すべて男性でした。国籍は、日本が 30 例(96.8%)で、その他が 1 例(3.2%)でした。年齢層別では、20 歳代が 7 例(22.6%)、30 歳代が 16 例(51.6%)、40 歳代が 4 例(12.9%)、50 歳代が 3 例(9.7%)、60 歳代が 1 例(3.2%)でした。推定感染地域は日本国内が 26 例(83.9%)、ベトナム、タイ、海外国名不明が各 1 例(3.2%)、不明が 2 例(6.5%)でした。

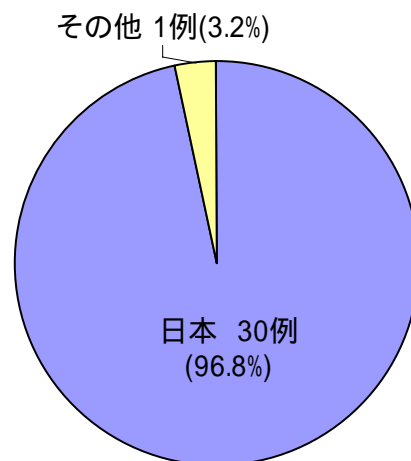
過去5年間の後天性免疫不全症候群月別報告数



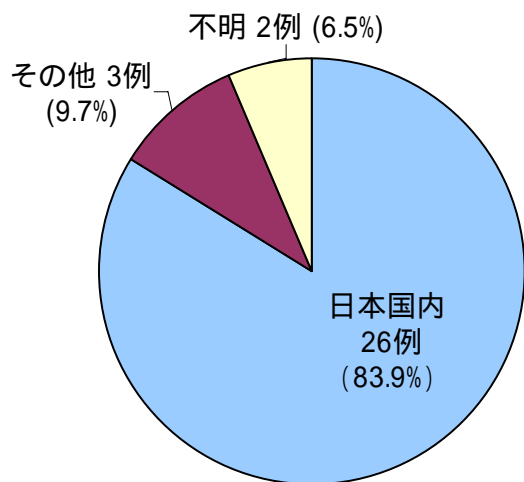
病型別報告割合 (2009年)



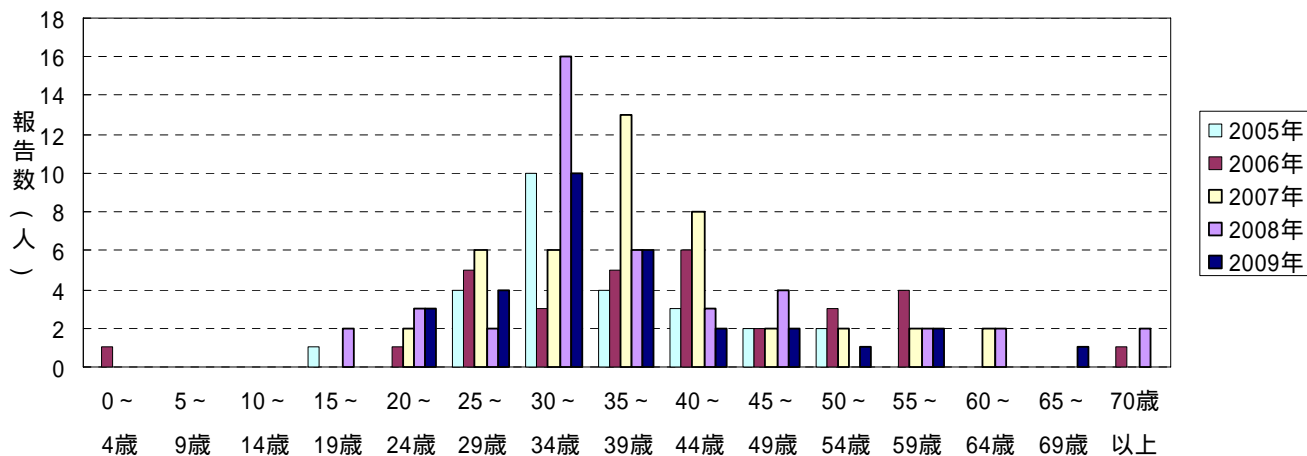
国籍別報告割合 (2009年)



感染地域別報告割合 (2009年)



過去5年間の後天性免疫不全症候群年齢層別報告数



ジアルジア症 (Giardia disease)

3例の報告があり、男女別では、男性が2例、女性が1例でした。年齢層別では、20歳代、30歳代、70歳代が各1例でした。推定感染地域は日本国内が2例、インドが1例でした。

梅毒 (Syphilis)

22例の報告があり、男女別では、男性が16例(72.7%)、女性が6例(27.3%)、年齢層別では、20歳代と30歳代が各6例(27.3%)、40歳代と50歳代が各3例(13.6%)、60歳代が1例(4.5%)、70歳代が2例(9.1%)、80歳代が1例(4.5%)でした。推定感染地域は日本国内が19例(86.4%)、不明が3例(13.6%)でした。

破傷風 (Tetanus)

3例の報告があり、推定感染地域はいずれも日本国内でした。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (Vancomycin-Resistant Enterococcal infection:VRE)

26例の報告があり、男女別では、男性15例(57.7%)、女性11例(42.3%)でした。年齢層別では、40歳代と50歳代が各1例(3.8%)、60歳代が6例(23.1%)、70歳代が10例(38.5%)、80歳以上が8例(30.8%)でした。推定感染地域はいずれも日本国内でした。

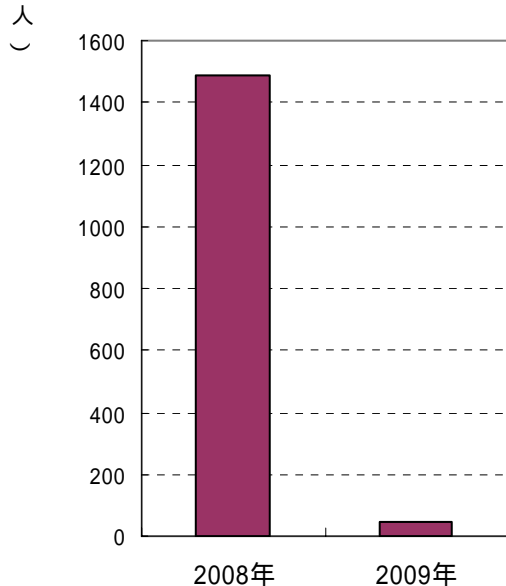
風しん (Rubella)

4例の報告があり、男女別では、男性3例、女性1例でした。年齢層別では、10歳代が2例、30歳代と40歳代が各1例でした。

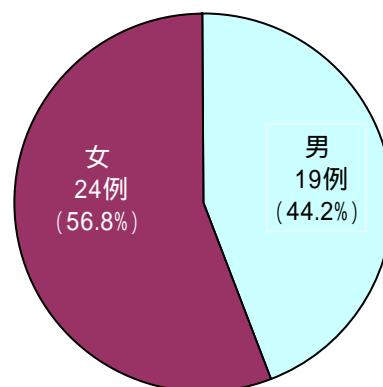
麻しん (Measles)

43例の報告があり、男女別では、男性19例(44.2%)、女性24例(55.8%)でした。年齢層別では、10歳未満が12例(27.9%)、10歳代と20歳代が各7例(16.3%)、30歳代が10例(23.3%)、40歳代が5例(11.6%)、50歳代と70歳代が各1例(2.3%)でした。全数把握疾患になった2008年の報告数1,485例の約3%の報告でした。

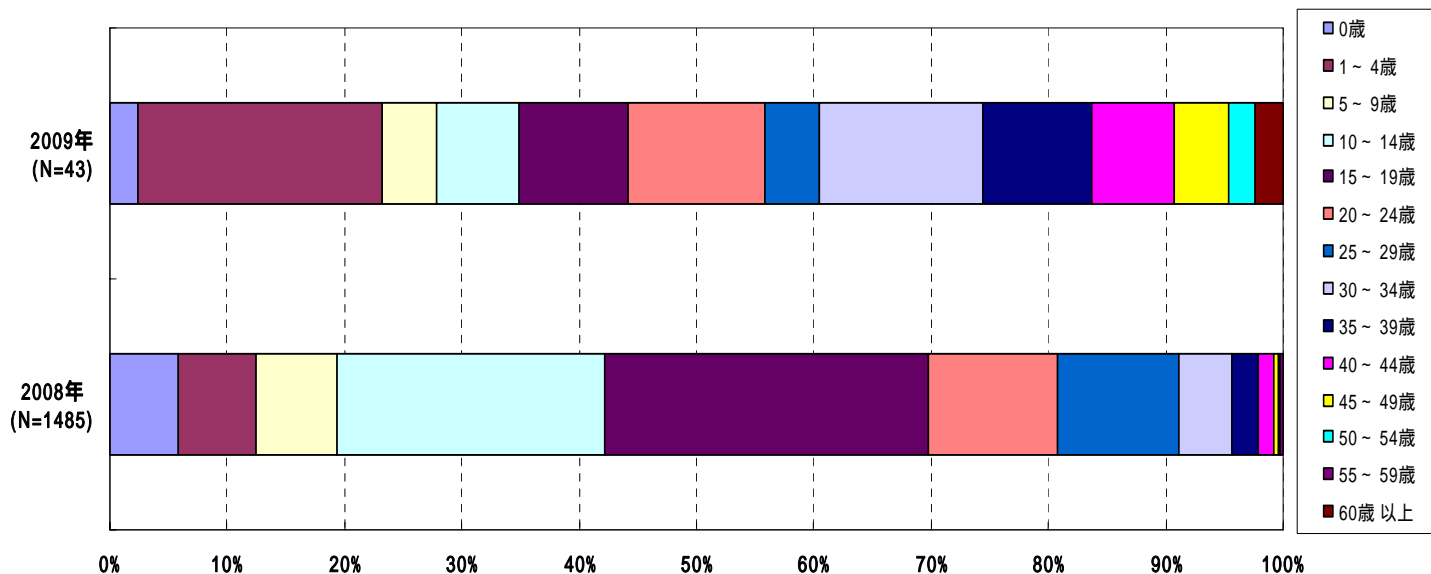
麻しん年間報告数推移



男女別報告割合(2009年)

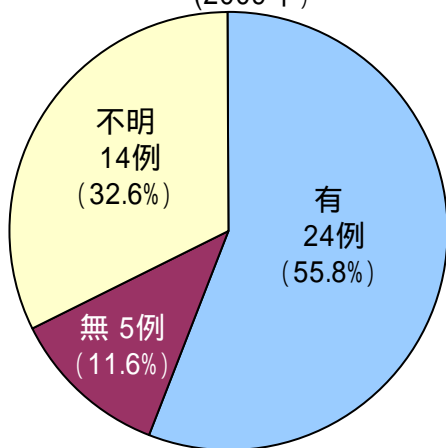


年齢層別麻疹報告数の割合 (2008年、2009年)

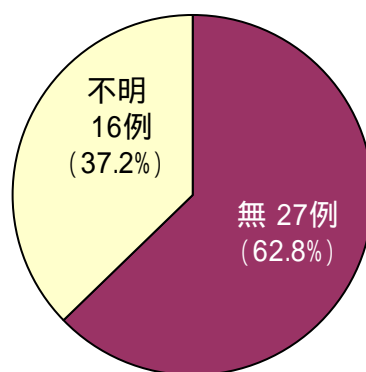


麻疹含有ワクチン接種歴は、1回目 有 24例(55.8%)、無 5例(11.6%)、不明 14例(32.6%)でした。
2回目有はなく、無 27例(62.8%)、不明 16例(37.2%)でした。

麻疹含有ワクチン接種率1回目 (2009年)

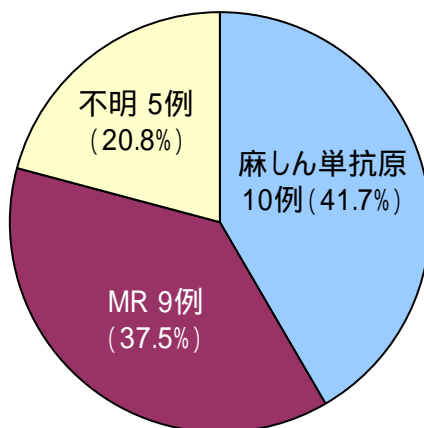


麻疹含有ワクチン接種率2回目(2009年) 有 0%

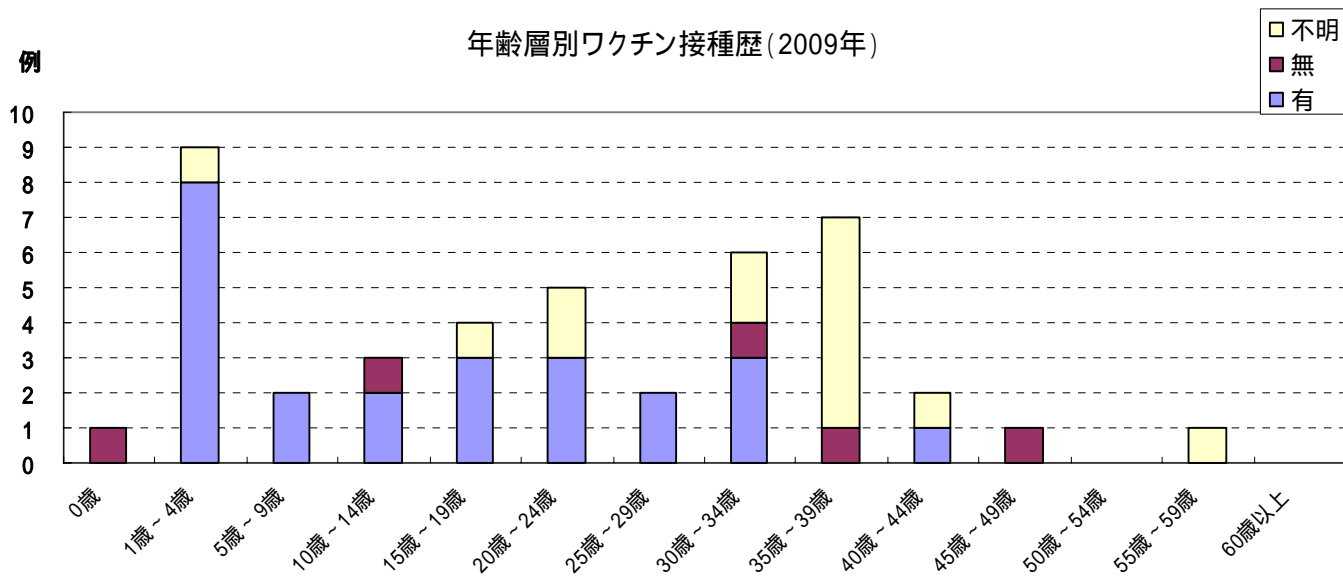


1回目接種歴ありのワクチン種類の内訳は、麻疹単抗原 10例(41.7%)、MR 9例(37.5%)、不明 5例(20.8%)でした。

1回目接種歴あり ワクチン種類の内訳(2009年)



年齢層別ワクチン接種歴有のうち約 30%が1～4歳でした。



全数把握対象の感染症 区別報告数(男女)

2009年

		鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢	港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	計
二類	急性灰白髄炎																			0
	結核	68	37	23	70	60	34	45	61	23	35	64	29	41	33	33	22	19	23	720
	ジフテリア																			0
	重症急性呼吸器症候群(SARS)																			0
三類	コレラ															1				1
	細菌性赤痢		1	1		1	1	5				1		1						11
	腸管出血性大腸菌感染症	6	4	2	3	1	4	8	3	1		8	1	18	7	18	2		1	87
	腸チフス																			0
	パラチフス							3												3
四類	E型肝炎																			0
	ウエストナイル熱																			0
	A型肝炎								1						1	1				3
	エキノコックス症																			0
	オウム病																			0
	Q熱																			0
	狂犬病																			0
	コクシジオイデス症																			0
	つつが虫病							1												1
	デング熱							4												4
	鳥インフルエンザ																			0
	日本紅斑熱																			0
	日本脳炎																			0
	ブルセラ症																			0
	ポツリヌス症																			0
	マラリア							2							1					3
ライム病							1												1	
レジオネラ症	2			1		2	3	2	1		1	1	3						16	
レプトスピラ症							1												1	
五類	アメーバ赤痢			15	3	1	1		2		3	2	2	2	2		2			35
	ウイルス性肝炎	2								2							1			5
	急性脳炎	3			1	4	1	3	1			1			2					16
	クリプトスポリジウム症																			0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1									2			1	1					5
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症														1					1
	後天性免疫不全症候群		2	1	5	3		12			5		1	2						31
	ジアルジア症					1		1	1											3
	髄膜炎菌性髄膜炎																			0
	梅毒	1			7	1		3	3		1			1	1		3		1	22
	破傷風										1			2						3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																			0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3				1	5	1	1		1			13		1				26
	風しん										1					1			2	4
麻しん	5	4		2	3	1	4	3	1	1	3	2	4	2	2	1	4	1	43	
計	91	48	42	92	76	49	97	78	28	50	80	36	89	50	57	31	23	28	1045	

全数把握対象の感染症 区別報告数 (男)

2009年

	鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢	港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	計	
二類	急性灰白髄炎																		0	
	結核	51	22	10	49	40	26	28	39	15	19	40	21	30	23	24	15	12	12	476
	ジフテリア																			0
	重症急性呼吸器症候群(SARS)																			0
三類	コレラ														1					1
	細菌性赤痢					1	1	2			1		1							6
	腸管出血性大腸菌感染症	4	2	1	2	1	3	4	1	1	5		13	5	9	1		1		53
	腸チフス																			0
	パラチフス						2													2
四類	E型肝炎																			0
	ウエストナイル熱																			0
	A型肝炎													1						1
	エキノコックス症																			0
	オウム病																			0
	Q熱																			0
	狂犬病																			0
	コクシジオイデス症																			0
	つつが虫病							1												1
	デング熱							3												3
	鳥インフルエンザ																			0
	日本紅斑熱																			0
	日本脳炎																			0
	ブルセラ症																			0
	ポツリヌス症																			0
	マラリア													1						1
ライム病							1												1	
レジオネラ症	2			1			2		1		1	1	2						10	
レプトスピラ症							1												1	
五類	アメーバ赤痢			14	1	1		2		3	2	2	2	2		2			31	
	ウイルス性肝炎	2							2											4
	急性脳炎	1				3	1	1						2						8
	クリプトスポリジウム症																			0
	クロイツフェルト・ヤコブ病									2										2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症														1					1
	後天性免疫不全症候群		2	1	5	3		12			5	1	2							31
	ジアルジア症					1			1											2
	髄膜炎菌性髄膜炎																			0
	梅毒	1			6	1		3	3				1				1			16
	破傷風										1			2						3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																			0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2					3	1	1		1			7						15
	風しん										1					1			1	3
麻しん	2	2			1		3	1	1	1	1	2		1			3	1	19	
計	65	28	26	64	52	33	64	49	20	33	50	27	61	35	35	19	15	15	691	

全数把握対象の感染症 区別報告数(女)

2009年

		鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢	港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	計
二類	急性灰白髄炎																			0
	結核	17	15	13	21	20	8	17	22	8	16	24	8	11	10	9	7	7	11	244
	ジフテリア																			0
	重症急性呼吸器症候群(SARS)																			0
三類	コレラ																			0
	細菌性赤痢		1	1				3												5
	腸管出血性大腸菌感染症	2	2	1	1		1	4	2			3	1	5	2	9	1			34
	腸チフス																			0
	パラチフス							1												1
四類	E型肝炎																			0
	ウエストナイル熱																			0
	A型肝炎								1							1				2
	エキノコックス症																			0
	オウム病																			0
	Q熱																			0
	狂犬病																			0
	コクシジオイデス症																			0
	つつが虫病																			0
	デング熱							1												1
	鳥インフルエンザ																			0
	日本紅斑熱																			0
	日本脳炎																			0
	ブルセラ症																			0
	ポツリヌス症																			0
	マラリア							2												2
ライム病																			0	
レジオネラ症						2	1	2					1						6	
レプトスピラ症																			0	
五類	アメーバ赤痢			1	2		1													4
	ウイルス性肝炎																1			1
	急性脳炎	2			1	1	1	2				1								8
	クリプトスポリジウム症																			0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1												1	1					3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																			0
	後天性免疫不全症候群																			0
	ジアルジア症							1												1
	髄膜炎菌性髄膜炎																			0
	梅毒				1						1				1		2		1	6
	破傷風																			0
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																			0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1				1	2							6		1				11
	風しん																			1
麻しん	3	2		2	2	1	1	2			2		4	1	2	1	1		24	
計	26	20	16	28	24	16	33	29	8	17	30	9	28	15	22	12	8	13	354	

全数把握対象の感染症 月別報告数(男女)

2009年

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
二類	急性灰白髄炎													0
	結核	46	55	50	77	74	50	71	37	58	101	58	43	720
	ジフテリア													0
	重症急性呼吸器症候群(SARS)													0
三類	コレラ											1		1
	細菌性赤痢	1		1	3	1	1	1	1		1	1		11
	腸管出血性大腸菌感染症	2	3	1	3	4	10	31	13	6	5	4	5	87
	腸チフス													0
	パラチフス			2									1	3
四類	E型肝炎													0
	ウエストナイル熱													0
	A型肝炎					1	1	1						3
	エキノコックス症													0
	オウム病													0
	Q熱													0
	狂犬病													0
	コクシジオイデス症													0
	つつが虫病												1	1
	デング熱	2	1							1				4
	鳥インフルエンザ													0
	日本紅斑熱													0
	日本脳炎													0
	ブルセラ症													0
	ボツリヌス症													0
	マラリア		2	1										3
	ライム病									1				1
レジオネラ症	5		1	2				1	1	3	2	1	16	
レプトスピラ症								1					1	
五類	アメーバ赤痢	3	5	2	4	1	2	1	2	4	2	3	6	35
	ウイルス性肝炎					1		2			1	1		5
	急性脳炎	1								2	6	6	1	16
	クリプトスポリジウム症													0
	クロイツフェルト・ヤコブ病				1	2	1						1	5
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1												1
	後天性免疫不全症候群	1	6	2	3	2	4	1	2		3	6	1	31
	ジアルジア症			1						1	1			3
	髄膜炎菌性髄膜炎													0
	梅毒	3	1	4	1		3		2	1	2	2	3	22
	破傷風					1	1			1				3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	2	1	2		2	3	1	2	4	5	2	26
	風しん	1	1	1					1					4
麻しん	7	5	1	7	5	2	8	3	3		1	1	43	
計	75	81	68	103	92	77	122	64	81	128	91	63	1045	

全数把握対象の感染症 月別報告数 (男)

2009年

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
二類	急性灰白髄炎													0
	結核	34	40	32	48	50	33	52	26	36	58	33	34	476
	ジフテリア													0
	重症急性呼吸器症候群(SARS)													0
三類	コレラ											1		1
	細菌性赤痢			1	1	1	1	1				1		6
	腸管出血性大腸菌感染症	1	2	1	3	4	5	19	7	2	2	4	3	53
	腸チフス													0
	パラチフス			1									1	2
四類	E型肝炎													0
	ウエストナイル熱													0
	A型肝炎						1							1
	エキノコックス症													0
	オウム病													0
	Q熱													0
	狂犬病													0
	コクシジオイデス症													0
	つつが虫病												1	1
	デング熱	2								1				3
	鳥インフルエンザ													0
	日本紅斑熱													0
	日本脳炎													0
	ブルセラ症													0
	ポツリヌス症													0
	マラリア			1										1
	ライム病									1				1
レジオネラ症	2			2				1	1	3		1	10	
レプトスピラ症								1					1	
五類	アメーバ赤痢	3	4	2	4	1	2	1	2	3	2	2	5	31
	ウイルス性肝炎					1		2				1		4
	急性脳炎									2	4	1	1	8
	クリプトスポリジウム症													0
	クロイツフェルト・ヤコブ病					2								2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1												1
	後天性免疫不全症候群	1	6	2	3	2	4	1	2		3	6	1	31
	ジアルジア症									1	1			2
	髄膜炎菌性髄膜炎													0
	梅毒	3	1	3	1		2		1		1	2	2	16
	破傷風					1	1			1				3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2			2		1	3	1	1	2	2	1	15
	風しん		1	1					1					3
麻しん	5	1	1	3	3		2	2	1		1		19	
計	54	55	45	67	65	50	84	44	50	73	57	47	691	

全数把握対象の感染症 月別報告数 (女)

2009年

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
二類	急性灰白髄炎													0
	結核	12	14	19	29	24	17	19	11	22	43	25	9	244
	ジフテリア													0
	重症急性呼吸器症候群(SARS)													0
三類	コレラ													0
	細菌性赤痢	1			2				1		1			5
	腸管出血性大腸菌感染症	1	1				5	12	6	4	3		2	34
	腸チフス													0
	パラチフス			1										1
四類	E型肝炎													0
	ウエストナイル熱													0
	A型肝炎					1		1						2
	エキノコックス症													0
	オウム病													0
	Q熱													0
	狂犬病													0
	コクシジオイデス症													0
	つつが虫病													0
	デング熱		1											1
	鳥インフルエンザ													0
	日本紅斑熱													0
	日本脳炎													0
	ブルセラ症													0
	ボツリヌス症													0
	マラリア		2											2
ライム病													0	
レジオネラ症	3		1								2		6	
レプトスピラ症													0	
五類	アメーバ赤痢		1							1		1	1	4
	ウイルス性肝炎										1			1
	急性脳炎	1									2	5		8
	クリプトスポリジウム症													0
	クロイツフェルト・ヤコブ病				1		1						1	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症													0
	後天性免疫不全症候群													0
	ジアルジア症			1										1
	髄膜炎菌性髄膜炎													0
	梅毒			1			1		1	1	1		1	6
	破傷風													0
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		2	1			1			1	2	3	1	11
	風しん	1												1
麻しん	2	4		4	2	2	6	1	2			1	24	
計	21	25	24	36	27	27	38	20	31	55	34	16	354	

全数把握対象の感染症 年齢別報告数(男女)

2009年

		0~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上	計	
二類	急性灰白髄炎																		0	
	結核	3	1	1	10	28	38	43	36	37	38	37	50	57	48	58	74	161	720	
	ジフテリア																		0	
	重症急性呼吸器症候群(SARS)																		0	
三類	コレラ													1					1	
	細菌性赤痢			1		4	2	2		1	1								11	
	腸管出血性大腸菌感染症	7	10	16	14	6	4	4	5	3	5		4	3	4	2			87	
	腸チフス																		0	
	パラチフス					1	2												3	
四類	E型肝炎																		0	
	ウエストナイル熱																		0	
	A型肝炎								1		1	1							3	
	エキノコックス症																		0	
	オウム病																		0	
	Q熱																		0	
	狂犬病																		0	
	コクシジオイデス症																		0	
	つつが虫病																1		1	
	デング熱				1		1		1			1							4	
	鳥インフルエンザ																		0	
	日本紅斑熱																		0	
	日本脳炎																		0	
	ブルセラ症																		0	
	ポツリヌス症																		0	
	マラリア	1					2												3	
	ライム病										1								1	
レジオネラ症											1		1	1	5	2	2	4	16	
レプトスピラ症												1							1	
五類	アメーバ赤痢							3	3	8	4	2	7	5	1	2			35	
	ウイルス性肝炎	1				1	1		1					1					5	
	急性脳炎	1	8	3	2									1		1			16	
	クリプトスポリジウム症																		0	
	クロイツフェルト・ヤコブ病															4	1		5	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症													1					1	
	後天性免疫不全症候群					3	4	10	6	2	2	1	2		1				31	
	ジアルジア症					1		1								1			3	
	髄膜炎菌性髄膜炎																		0	
	梅毒					4	2	2	4	2	1		3		1	2		1	22	
	破傷風					1					1					1			3	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																		0	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症											1		1	3	3	6	4	8	26
	風しん			1	1			1			1									4
麻しん	10	2	3	4	5	2	6	4	3	2	1						1		43	
計	23	21	25	32	54	58	72	61	57	58	44	68	73	64	79	82	174		1045	

全数把握対象の感染症 年齢別報告数 (男)

2009年

		0~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上	計	
二類	急性灰白髄炎																		0	
	結核	1	0	1	6	12	18	25	22	25	26	27	36	45	32	46	53	101	476	
	ジフテリア																		0	
	重症急性呼吸器症候群(SARS)																		0	
三類	コレラ													1					1	
	細菌性赤痢					2	2	1		1									6	
	腸管出血性大腸菌感染症	2	8	12	12	5	1	2	3	1	3		1	2		1			53	
	腸チフス																		0	
	パラチフス						2												2	
四類	E型肝炎																		0	
	ウエストナイル熱																		0	
	A型肝炎										1								1	
	エキノコックス症																		0	
	オウム病																		0	
	Q熱																		0	
	狂犬病																		0	
	コクシジオイデス症																		0	
	つつが虫病																	1	1	
	デング熱				1		1		1										3	
	鳥インフルエンザ																		0	
	日本紅斑熱																		0	
	日本脳炎																		0	
	ブルセラ症																		0	
	ポツリヌス症																		0	
	マラリア							1											1	
ライム病										1								1		
レジオネラ症											1		1	1	2	1	2	2	10	
レプトスピラ症												1							1	
五類	アメーバ赤痢								3	7	4	2	7	5	1	2			31	
	ウイルス性肝炎	1				1	1		1										4	
	急性脳炎		4	3										1					8	
	クリプトスポリジウム症																		0	
	クロイツフェルト・ヤコブ病																2		2	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症													1					1	
	後天性免疫不全症候群					3	4	10	6	2	2	1	2		1				31	
	ジアルジア症								1								1		2	
	髄膜炎菌性髄膜炎																		0	
	梅毒					3	1	2	4	2	1		1		1	1			16	
	破傷風					1					1					1			3	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																		0	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症										1				1	2	5	3	3	15
	風しん				1				1			1								3
麻しん	4		1	3	2	1	4	2	1	1									19	
計	8	12	18	22	29	32	46	42	40	42	31	48	57	40	60	58	106	691		

全数把握対象の感染症 年齢別報告数(女)

2009年

		0~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上	計
二類	急性灰白髄炎																		0
	結核	2	1	0	4	16	20	18	14	12	12	10	14	12	16	12	21	60	244
	ジフテリア																		0
	重症急性呼吸器症候群(SARS)																		0
三類	コレラ																		0
	細菌性赤痢			1		2		1		1									5
	腸管出血性大腸菌感染症	5	2	4	2	1	3	2	2	2	2		3	1	4	1			34
	腸チフス																		0
	パラチフス					1													1
四類	E型肝炎																		0
	ウエストナイル熱																		0
	A型肝炎								1			1							2
	エキノкокクス症																		0
	オウム病																		0
	Q熱																		0
	狂犬病																		0
	コクシジオイデス症																		0
	つつが虫病																		0
	デング熱												1						1
	鳥インフルエンザ																		0
	日本紅斑熱																		0
	日本脳炎																		0
	ブルセラ症																		0
	ポツリヌス症																		0
	マラリア	1					1												2
ライム病																		0	
レジオネラ症															3	1		2	
レプトスピラ症																		0	
五類	アメーバ赤痢							3		1									4
	ウイルス性肝炎													1					1
	急性脳炎	1	4		2											1			8
	クリプトスポリジウム症																		0
	クロイツフェルト・ヤコブ病																2	1	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																		0
	後天性免疫不全症候群																		0
	ジアルジア症					1													1
	髄膜炎菌性髄膜炎																		0
	梅毒					1	1						2			1		1	6
	破傷風																		0
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																		0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症												1	2	1	1	1	1	5
	風しん				1														1
麻しん	6	2	2	1	3	1	2	2	2	2	1	1				1		24	
計	15	9	7	10	25	26	26	19	17	16	13	20	16	24	20	23	68	354	

6. トピックス 《2009-2010 シーズン: 新型インフルエンザ(A/H1N1)の流行》

平成 21 年 4 月に、メキシコで新型インフルエンザ(A/H1N1)が発生し、その後世界的に大流行(パンデミック)を起こしました。日本では、5 月に兵庫県神戸市で国内初の新型インフルエンザ患者が確認されました。横浜市内では、6 月になって、初発患者が確認されました。

国内発生当初から 7 月 23 日までは、感染症法に基づいた医師からの全数届出により、新型インフルエンザの患者の全数把握を行い、感染拡大を早期に探知し感染拡大の防止に努めました。7 月 24 日までに、市内で 235 例の確定患者が確認されました。

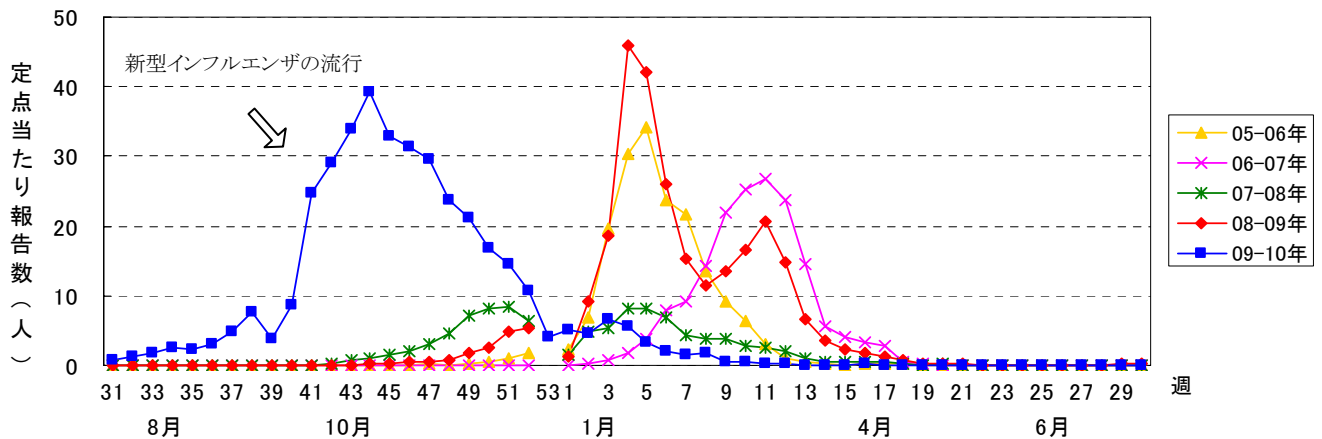
7 月 24 日以降は、全数把握を中止し、集団における患者発生の早期探知のためのクラスター(集団発生)サーベイランスに変更になりました。また、重症化探知のために入院サーベイランスが、ウイルスの性状変化の監視のためにウイルスサーベイランスが行われました。

全数把握中止後は、通常のインフルエンザ定点(小児科定点と内科定点合わせて 145 定点)からの患者報告によって、季節性インフルエンザ同様、流行状況の把握を行いました。

◇ インフルエンザ定点

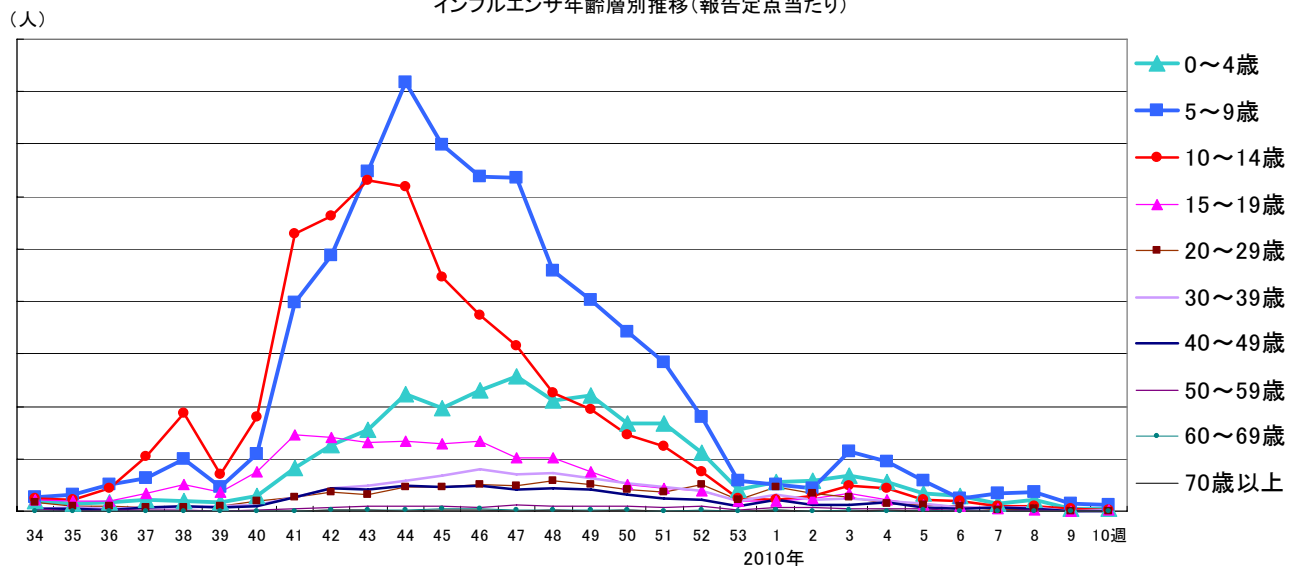
本市では、第 32 週(8 月 3 日から 8 月 9 日)に流行開始の基準の定点当たり報告数 1.0 を超え、第 44 週(10 月 26 日から 11 月 1 日)に定点当たり報告数が 39.2 と流行のピークとなりました。その後、22 年 3 月第 9 週(3 月 1 日から 3 月 7 日)に定点当たり報告数が 0.59 となり、定点当たり 1 を下回りました。

過去 5 年のインフルエンザの流行状況 (横浜市)



年齢層別では、流行のピークの第 44 週付近までは、10～14 歳の小学校高学年から中学生相当の年齢層に多く患者が見られましたが、第 44 週以降は、例年の季節性インフルエンザ同様に、10 歳未満に多く見られました。

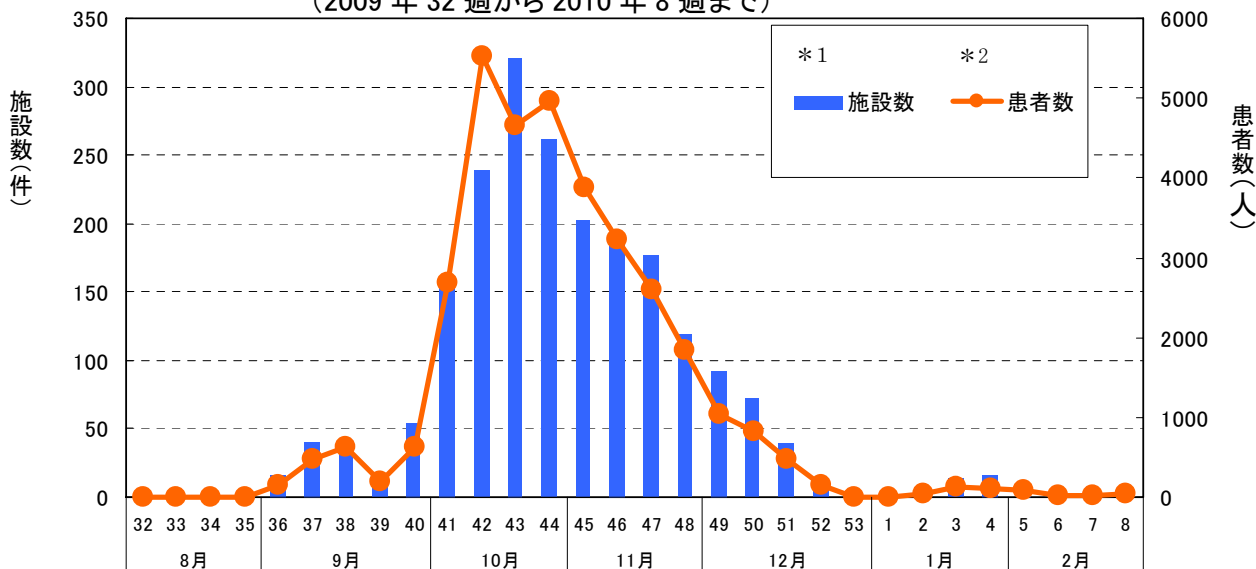
インフルエンザ年齢層別推移(報告定点当たり)



◇ インフルエンザ様疾患発生報告

従来から、インフルエンザが流行する冬季に、保育所、幼稚園、小学校及び中学校でのインフルエンザ様疾患による休校や学年閉鎖、学級閉鎖があった場合には、「インフルエンザ様疾患発生報告」でその数が報告されています。新型インフルエンザ(A/H1N1)の国内発生を受けて、報告対象に「高等学校」が加わりました。さらに、7月24日からは、報告の通年実施が行われるようになりました。幼稚園から高等学校までの休校、学年閉鎖、学級閉鎖についても、10月中旬にピークを向かえ、その後漸減しました。

幼稚園・小学校・中学校・高等学校における休校、学年閉鎖、学級閉鎖の状況
(2009年32週から2010年8週まで)



* 1 当該週に休校、学年閉鎖、学級閉鎖のあった施設数

* 2 当該週に確認された幼稚園、小学校、中学校、高等学校におけるインフルエンザ様疾患患者数

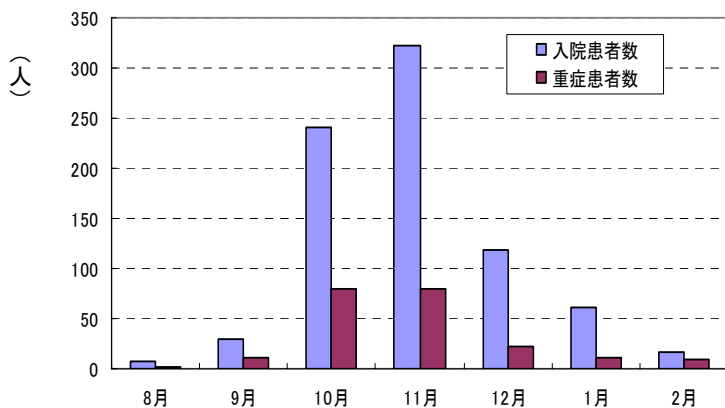
◇ 入院サーベイランス

入院サーベイランスでは、8月から2月末までに、797人の報告がありました。本市においては、脳症、人工呼吸器使用及び集中治療室入室のいずれかの患者並びに重症肺炎や呼吸障害を引き起こしたケースを重症患者としました。

入院患者数も重症患者数も11月が最多でした。年齢別では、20歳未満が、全体の89.9%を占めました。

入院患者 (8月～2月) N=797人

(脳症、人工呼吸器使用、集中治療室入室のいずれかの患者と重症肺炎や呼吸障害のある患者を重症患者とした。)



入院患者年齢層別内訳 N=797人

(8月～2月)

